

4 世界の歌

菩提樹	近藤娟風	F. Schubert	佐々木基之
うぐいす	矢田部勤吉	F. Mendelssohn	
緑の森よ	緒園涼子	F. Mendelssohn	
ひばり	関みゆき	M. I. Glinka	佐々木基之
緑なみつつ	関みゆき	F. Lehár	佐々木基之
森の音楽会	黒沢敬一	A. Banchieri	
ドリゴのセレナーデ	堀内敬三	Dorigo	高村聰
Humoreske		A. Dvořák	佐々木基之
		フルート・クラリネット	佐々木恵美
		フルート	佐々木美和

"Tenebrae Responsories"

Tomas Luis De Victoria

作曲者ヴィクトリアは、16世紀中頃の教会音楽家であります。中部スペインのカスティーリヤに生まれた彼は、児童合唱に加わって音楽的な成長をしたものと思われます。その楽才が認められてスペイン王の名により奨学金を下賜されてローマに渡り、ドイツ学院の学生となってパレストリーナ等に師事しました。卒業後市内の教会の要職につき、後にパレストリーナの後任としてローマ学院の教授に迎えられ、その二年後には母校ドイツ学院の学長にもなりました。しかし生来の深い宗教精神から、1578年にあらゆる地位を捨ててローマ市内のサン・ジロラモ教会の平の司祭となりました。ここで彼の作品の中でも感動を呼ぶ「聖週間聖務曲集」、「死者のためのミサ曲」を作ったのです。

1585年頃、ヴィクトリアは、かねて念願していた祖国スペインへの帰国を果たし、マドリードのテスカルサス・レアレス修道院で余世を送っていた皇太后マリアと、その令嬢マルガリータに仕えながら楽長、オルガニスト、司祭として暮らしました。

本日演奏する“聖土曜日のレスポンソリウム”は「聖週間聖務曲集」に収められています。教会暦で、復活祭に先立つ一週間のことを「聖週間」といいますが、これは信徒たちがキリストの殉難をいたみ悔悟にくれる週間であります。ヴィクトリアは、この折に歌うための典礼歌曲のみを取りまとめて出版しました。このうち特に聖木曜日から聖土曜日までの18のレスポンソリウム（応唱）はすべて四声に書かれ、比較的簡潔なボリフォニーによっていますが、そこに流れる深々とした悲哀と憤哭の魅力は何物にも替えがたいものです。同時にそれはスペイン宗教音楽の神髄を披瀝したものといえましょう。

あねがい

曲目は指揮者が一曲ずつ申し上げますので、演奏中はプログラムをめぐりにならぬようお願ひいたします。